



省力栽培を可能にする 単為結果性トマト・ナス品種の開発



ルネッサンス



とげなし輝楽



（園芸研究所・園芸研究部開発）

背景

トマトやナスの栽培では、受粉など実をつけるための作業が必要です。そこで、実をつける作業労力を軽減するため、単為結果性（受粉しなくても結実し、果実が肥大する性質）を備えた品種の開発に取り組みました。

成果の内容

トマトの単為結果性品種は、愛知県が日本で初めて育成しました。「ルネッサンス（商品名）」（あいさか2号（品種名））は、2番目に育成した品種で、食味も良好なのが特長です。

ナスでは、単為結果性ととげなし性を併せ持つ日本初の品種「とげなし輝楽」を育成しました。受粉作業が省略できることに加えて、とげが発生しないため、管理作業が快適に行えます。

愛知県農業への貢献

「ルネッサンス」は、県内では中山間地域を中心に、全国で23ha栽培されています。「とげなし輝楽」は、愛知県内では西三河地域を中心に10haで栽培されています（2014年）。

「ルネッサンス」は（株）サカタのタネ、「とげなし輝楽」は（独）野菜茶業研究所（当時）との共同研究です。

（園芸研究部）